

令和5年度病虫害発生予察指導情報

7月13日の豪雨により注意が必要な病虫害について

令和5年7月14日
鳥取県病虫害防除所

1 情報の内容

7月13日の記録的な豪雨により、農作物の病虫害の発生が懸念されているため、以下のとおり適切な対策を講じる。

2 発生に注意が必要な病虫害と対策

(1) イネ白葉枯病

本病は浸冠水により発生が助長される。現時点で、本病に有効な抵抗性誘導型の育苗箱施用剤を使用している場合は、残効が期待できる。一方、これらの育苗箱施用剤を使用していないほ場において、本病の発生が予想される場合は、できるだけ早くオリゼメート粒剤等を散布する。防除上注意すべき事項は、病虫害防除指針を参考にする。

(2) ダイズ黒根腐病

本病は土壌の多湿条件下で発生が助長されるため、排水対策を徹底する。

(3) ダイズ茎疫病

白大豆では発生しにくいですが、土壌の多湿条件により発病が助長されるため、排水対策を徹底する。また、発生がみられた場合には病虫害防除指針を参考にして、薬剤防除を行う。

(4) ナシ・カキ炭疽病

いずれも降雨により感染が助長され、多雨による薬剤の流亡により防除効果が低下している可能性がある。令和5年度病虫害発生予報第5号（令和5年7月5日付）及び病虫害防除指針を参照とし、追加散布等を検討する。

(5) ハダニ類（果樹・野菜共通）

ハダニ類の密度は、梅雨明け以後の高温乾燥条件下で急激に高まるので、ほ場の観察を徹底し、発生初期の防除に努める。防除上注意すべき事項は、令和5年度病虫害発生予報第5号（令和5年7月5日付）及び病虫害防除指針を参照する。

(6) ネギ白絹病・軟腐病

これらの病害は高温多湿条件下で発生が助長される。防除上注意すべき事項は、令和5年度病虫害発生予報第5号（令和5年7月5日付）及び病虫害防除指針を参照する。

(7) アスパラガス茎枯病

本病は、露地栽培の降雨後や排水不良畑で発生しやすい。病虫害防除指針を参考に降雨後の薬剤防除を徹底するとともに、発病茎や葉の圃場外処分を行う。

(8) スイカ疫病・褐色腐敗病

これらの病害は露地栽培の降雨後や排水不良畑で発生しやすい。令和5年度病虫害発生予報第5号（令和5年7月5日付）及び病虫害防除指針を参考に、降雨後の薬剤散布を徹底する。

(9) ブロッコリーの細菌性病害（黒腐病、黒斑細菌病、軟腐病）

本病は、高温期に収穫する作型で発病が多く、出蕾時期から花蕾肥大初期に降雨が続くと発病が多くなる。病虫害防除指針を参考に降雨後の薬剤防除を徹底する。

(10) ブロッコリー黒すす病

本病は、多湿条件で発病が助長され、大雨などより発病が助長される。圃場のブロッコリー下位葉において発病がないか観察し、発病が見られた場合は直ちに薬剤防除を行う（薬剤は病虫害防除指針を参照）。また、今後連続した降雨が見られる場合は、降雨前もしくは降雨後に追加散布を行うことが望ましい。

(11) ナガイモ炭疽病

本病は降雨によって発病が増加する。令和5年度病虫害発生予報第5号（令和5年7月5日付）及び病虫害防除指針を参考に、降雨後の薬剤散布を徹底する。